

中学国語A

3 評価・批評を推敲すいこうに生かす

③の問題は、二人の生徒が書いた意見文をそれぞれ読み合い、互いの良さを見だし、それを自分の表現に役立てるといふ内容の問題です。

③ 中学校の国語の授業で、「情報化社会を生きる私たちに必要なこと」というテーマの意見文を書いています。目標は、「構成を工夫して、自分の意見を明確に述べること」です。今日の授業では、ほぼ完成した意見文をグループ内で読んで話し合い、それを参考にして自分の意見文を推敲することになりました。次の文章は、同じグループの小森さんと村上さんが書いた意見文です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【小森さんの意見文】

① 現代は、メールが普及し、便利になっている。昔に比べると、気軽に素早くメッセージをやりとりできる時代になった。しかし、私たちは、こうした伝達手段によって、お互いを深く理解し合えていると言えるだろうか。逆に不十分なメッセージによって、誤解が生まれるようなことさえあるのではないだろうか。

② 先日、友達からこんな話を聞いた。ちよっとしたことでもけんかをしてしまった仲の良い友達から「もう終わりにしようよ。」と書かれたメールが届いたのだ。うだ。けんかをするのはもう終わりにして、また仲良くしようという意味なのか、もう友達づきあいは終わりにしようという意味なのか、悩んだと言っていた。

③ 手軽なメールは、確かに便利である。しかし、そのためにお互いに直接会って話し合うようなコミュニケーションが軽視されるのでは意味がないと思う。

【村上さんの意見文】

情報があふれている社会で私たちに必要なものは、必要な情報を選択する力と、情報の正しさを判断する力だと思う。この二つの力がなければ、私たちは、情報に流されてしまふのではないだろうか。私には、一年生の時に失敗してしまった経験がある。夏休みの自由研究で「絶滅のおそれがある野生動物」というテーマのレポートを作成し、提出した。ところが、参考にしたインターネットのホームページの内容が正しいかどうか疑問だという指摘を先生からいただいたのだ。私は、改めてホームページを確かめてみた。すると、五年前から一度も更新されていないものや、地球上の一部の地域のことしか取り上げていないものがあった。情報を何も考えずに受け入れてしまうことは、とても危険である。情報をうのみにせず、本当に必要なものを選び、正しく判断できる力こそ私たちに求められているものなのだ。

①から③は、段落の番号を表します。

一 小森さんは、【村上さんの意見文】を読んで、自分の意見文の書き出しに次の一文を書き加えることにしました。

情報化社会と呼ばれる現代だからこそ、お互いに顔を合わせてのコミュニケーションを大切にする気持ちが必要だ。

このことから、小森さんが村上さんの意見文をどのように評価したことが分かりますか。次の1から4のうち、最も適切なもの一つ選びなさい。

- 1 村上さんの意見文は、読み手に問いかけるように自分の体験を紹介しているため、読み手の共感を誘う点が良い。
- 2 村上さんの意見文は、多くの人々が感じる疑問から書き始めているため、読み手が話題をとらえやすい点が良い。
- 3 村上さんの意見文は、身近な例を挙げて説明しているため、書き手の考えが読み手に具体的に示される点が良い。
- 4 村上さんの意見文は、結論を述べてから論を展開しているため、書き手の考えが読み手に明確に伝わる点が良い。

☆ この問題は、論理の展開に着目し、評価・批評することができかどうかをみる問題です。

③ の一の問題を1〜3の順に考えて解いていきましょう。

1 「意見文のテーマ」は、何ですか。

情報化社会を生きる私たちに必要なこと

2 小森さんが書き出しに書き加えることにした一文には、どのような考えが書かれていますか。

情報化社会と呼ばれる現代では、お互いに顔を合わせたのコミュニケーションを大切にする気持ち

が必要であるという考え。

※小森さんが書き加えようとした一文は、意見文のテーマ「情報化社会を生きる私たちに必要なこと」に関する自分の考え（結論）であることが分かりますね。

3 村上さんは、情報化社会を生きる私たちに必要なことは何だと考えていますか。

必要な情報を選択する力と、情報の正しさを判断する力

※村上さんの意見文は、テーマ「情報化社会を生きる私たちに必要なこと」に関する自分の考え（結論）を述べてから論理を展開していることが分かりますね。

二 村上さんは、「小森さんの意見文」を読んで、内容ごとに段落を分けている点が良いと思いました。そこで、小森さんの書き方を参考に段落を分けることにします。次の文章は、そのことを説明したものです。あとの1から4のうち、アからカの組み合わせとして最も適切なもの一つを選び、文章を完成させなさい。

【小森さんの意見文】の三つの段落は、

- ア 「問題提起」、「まとめ」、「具体例」
- イ 「問題提起」、「具体例」、「まとめ」

の順に分けられている。

これにならうと、【村上さんの意見文】は、

- ウ 「私には、一年生の時に」
- エ 「私は、改めて」

の前と

オ 「情報を何も考えずに」

カ 「情報をうのみにせずに」

の前で改行して、三つの段落に分けると良い。

1 ア・ウ・オ

2 ア・エ・カ

3 イ・ウ・オ

4 イ・エ・カ

☆ この問題は、適切な段落を設けて、論理的な文章にすることができかどうかをみる問題です。

③の二の問題を1〜3の順に考えて解いていきましょう。

1【小森さんの意見文】は、どのように論理を展開しているでしょうか。各段落に書かれている内容を、次の□に適切な語句を入れて整理してみましょう。

・1段落ではメールという伝達手段によって、お互いを深く理解し合っているかという

問題 を 提起 している。

2段落は、友達から聞いた話を 具体例 として紹介している。

・3段落では問題点を再度挙げて、自分の意見を まとめ ている。

2【村上さんの意見文】で、【小森さんの意見文】のように「・・・だろうか。」と問題提起をしている部分は、どこからどこまでですか。

情報があふれている社会で

で は な い だ ろ う か

3【村上さんの意見文】で、具体例が紹介されているのは、どこからどこまでですか。

私 に は 、
〜 が あ っ た 。

※この具体例のあとに、体験した事実を基にした村上さんの意見が述べられているかどうかを確認してみましょう。

*ポイント

○説得力のある整った文章を書くには、次のような観点で文章を読み返すとともに、日頃から文章を読む習慣を付けることが大切です。

「書くとき」テーマに対する自分の考えをはっきりさせる。

「読むとき」テーマは何で、それについて筆者はどう考えているか。(簡略にまとめる)

「書くとき」考えを説明する根拠となる事実を、身の回りや新聞等の情報から探す。

「読むとき」筆者が考えを訴えるために用いている事実は何か。(小見出しを付ける)

「書くとき」今までに学習した構成(三段論法・頭括式など)を使って書く。

「読むとき」どこに結論や根拠となる事実があり、どう組み立てているか。

(意味段落に分ける)